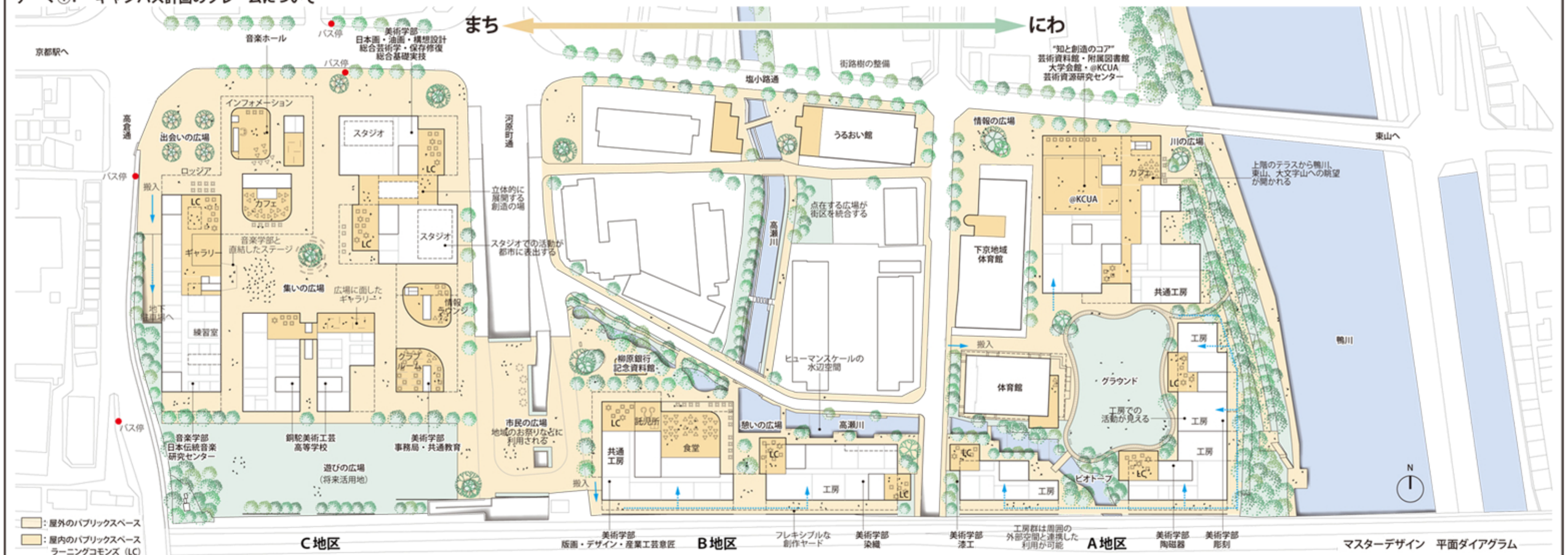
受付番号：

テーマに対する技術提案

テーマ①：　キャンパス計画のフレームについて



○基本となる枠組みと、関係者との対話や時の経過などにより柔軟に変化していく部分との関係

■基本となる枠組み

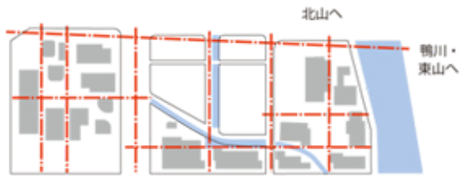
① まちからにわへと変化するキャンパスの姿
② 「都市のすき間」をつくり出す分節型キャンパス
③ パブリックスペースによるキャンパスのつながり
④ 相互交流を促すプログラム配置
⑤ 軒線による統一感と計画の自由度

■柔軟に変化していく部分

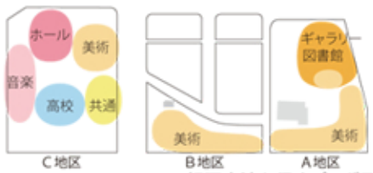
・関係者との対話により上記の基本となる枠組みを確認しながら、諸元表（プログラム）に基づくプランニングなどの設計に関して、柔軟に対応しながら進めて行く。特に、枠組み④,⑤について、次の内容を確認する必要がある。
　a. 各地区のゾーニングにおける各学部、高校の配置
　b. 各学部、高校のプログラムにおける層構成
　c. 層構成における軒高 20m,10m の上下部の構成内容
・時の経過による変化にフレキシブルに対応できるように、設計において分棟型配置の特性を活かし、間仕切り・構造・設備のシステムについて具体的に検討しながら進めていく。

まちからにわへと変化するキャンパスの姿
周辺の環境に対応して変化する建築やランドスケープの姿によってキャンパスに多様な空間をつくり出す

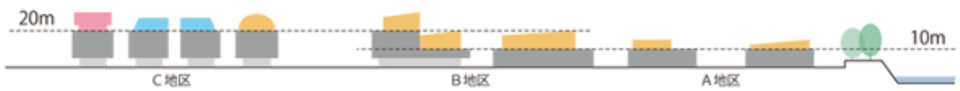
パブリックスペースによるキャンパスのつながり
内外のパブリックスペースの連携によりキャンパス全体につながりをつくり出す
パブリックスペースと創作活動の場の接触による文化芸術に相応しい環境の創出



「都市のすき間」をつくり出す分節型キャンパス
歴史的な都市軸を継承しながら、建物の分節化により「都市のすき間」をつくり出し、周辺地域のスケールとの調和を図る



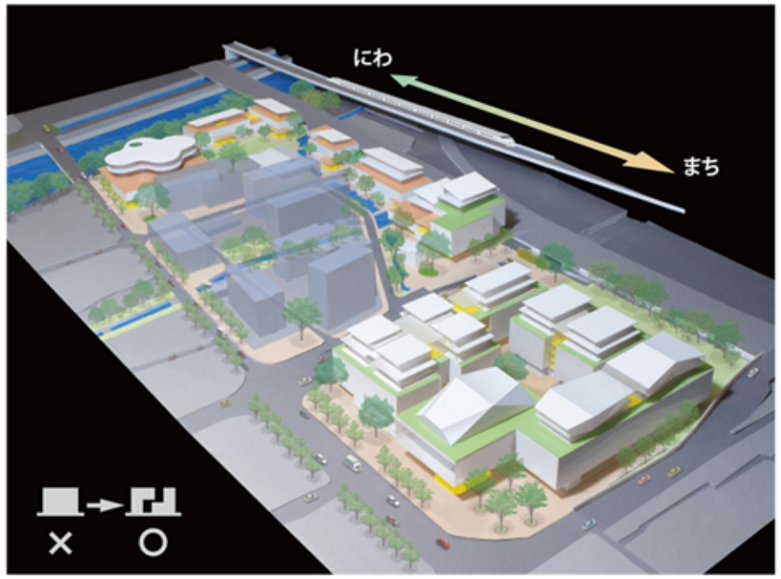
相互交流を促すプログラム配置
C地区に音楽学部、高校を配置し、美術学部がキャンパス全体に展開する配置によって他分野との相互交流を図る
塩小路通りに面して音楽ホールと"知と創造のコア"を配置し、まちとキャンパスを繋ぐ交流・発信の拠点とする



軒線による統一感と計画の自由度
まち側に 20m、にわ側に 10mの軒線を与えることによって、キャンパス全体の視覚的統一感を生み出す
それぞれの軒線の上下の平面計画、形態操作に最大限の自由度を与える

○設計コンセプト

■市民に開かれた内外のパブリックスペースと創作活動の場を密接に接触させることによって、文化芸術にふさわしいキャンパスを都心につくり出す。
■まちからにわへと変化する建築とランドスケープがつくり出す多様なキャンパスの景観。周辺地域も取り込んだ一体的な環境を創出する。



まちからにわへと変化していく形態と分節による、周辺環境と調和した景観

受付番号：

テーマに対する技術提案

テーマ②：新たなキャンパスの具現化に向けて

C地区： 街からの人の流れを受け止める**出会いの広場**
音楽ホールはまちに向けて大学の活動を発信する拠点となる
広場レベルに展開する多様なアクティビティがキャンパスへと人を導く

A地区： 鴨川と塩小路通の交点にある **"知と創造のコア"** がもう一つの情報発信拠点となる
奥の美術学部の工房群と共に文化芸術のシンボルとして鴨川沿いのキャンパスの顔となる
東山への眺望が開かれたテラスを持ち、鴨川沿いの桜並木越しに穏やかな姿を見せる

○大学とまちとの新しい関係について

■新しい場所のイメージの創出

・新しいキャンパスによって京都駅から東山に向かう新しい文化ゾーンを形成し、世界に文化芸術を発信する拠点として、この地域の新しい場所のイメージを創出する。

■文化芸術による都市風景の構想

・京都の豊かな歴史と文化を継承しながら、日本の都市空間の特性を活かしたアーバンデザインにより、文化芸術による新しい都市風景の構想を目指す。

・その都市空間の襞の多さ、重層性と奥性、類似と差異のネットワークなどの演出により、様々な場所で活動や交流のあるまちのようなキャンパスとなる。それらを５つの「基本となる枠組み」に反映し、新しいキャンパスの具体的な計画を進めていく。

■まちに開かれつながる大学

・キャンパスに配置された建物群の地上レベルの内外パブリックスペースを連携させ、キャンパス全体につながりをつくり出すとともに、まちに開かれる。

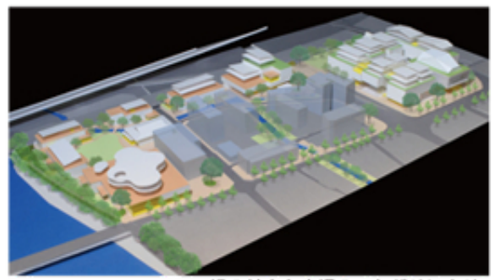
・さらに、塩小路通りに面して、音楽ホールと "知と創造のコア" を配置し、まちと大学をつなぐ交流・発信の拠点とする。

■地域とともにつくるまち

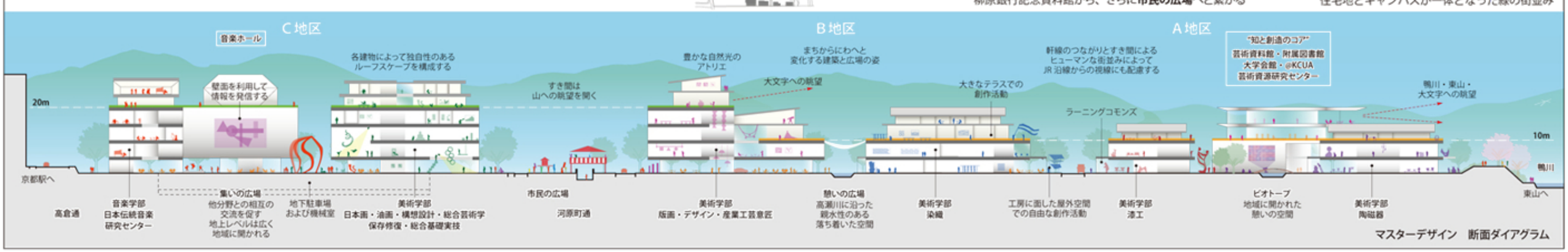
・市民・地域住民や地元企業、芸術家・他大学などと協力しながら、地域と大学による文化芸術活動と交流を通したまちづくりとして取り組んでいく。

B地区： 地域に開かれた水辺空間として、高瀬川の水景を導いた**憩いの広場**と食堂
広場に面した食堂は地域にも開かれ、交流の場となる
柳原銀行記念資料館から、さらに**市民の広場**へと繋がる

市民の広場は地域のお祭り広場であり、キャンパスと地域を繋ぐ



緑の並木と広場のつながりにより、
住宅地とキャンパスが一体となった緑の街並み



マスターデザイン　断面ダイアグラム

受付番号：

テーマに対する技術提案

■パブリックスペースによるまちのつながり

・キャンパスに配置された建物群の地上レベルの、広場、テラス、ラーニングコモンズ、ギャラリー、カフェ、食堂などの内外のパブリックスペースを連携させ、キャンパス全体につながりをつくり出す。

・それにより地域とのつながりが生まれ、キャンパス全体に人びとと学生の活動が広がっていく。

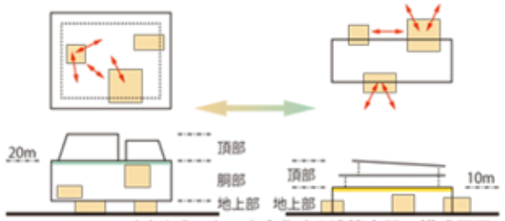
ラーニングコモンズ

エントランスラウンジ

C地区　各分野の独立性を保ちつつ、それらの交流を促す**集いの広場**
20mの軒線が建築群に形態的秩序を与える
広場は広く市民に開かれ、スタジオや練習室の活動が垣間見える

B地区　高瀬川沿いの親水性のある空間とまちに開かれた**憩いの広場**
ラーニングコモンズや工房での活動をまちから垣間見ることができる

内外のパブリックスペースの連携によるキャンパス全体のつながり

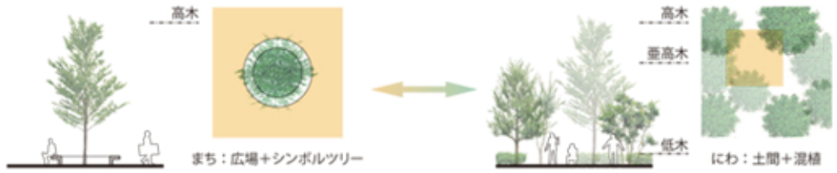


まちからにわへと変化する建築空間の構成原理

まち：広場とつながる開放的な地上部と相互交流を誘発するボイドを持ったフレキシブルな胴部

にわ：パブリックスペースが貫入し、ヒューマンスケールの建築の姿とランドスケープをつくり出す

頂部は各棟で自由な形態を持ち、建築群としてのキャンパスの新しいイメージを創出する



まちからにわへと変化するランドスケープが空間に重層性を与える

季節の変化に応じて移ろいゆく植栽による豊かな情景

A地区　**美術工房群**から広場を介して“知と創造のコア”を見る
外部空間と連携してフレキシブルな創作活動が可能な工房群
“知と創造のコア”と共にキャンパス全体が創造の場となる

■『空間のひだ』を生み出すパタンランゲージ

・キャンパス内に様々な人のふるまいを誘発するヒューマンスケールの『空間のひだ』をつくり出す。人々のアクティビティーが生み出す情景が創造へとつながっていく。

・まちを歩くように様々な場所で、創造活動を楽しむことができる。

集う

段差のあるコーナーに集まる

交流する

ロッジアで交流する

語らう

小さなコーナーで語らう

発信する

壁面を利用して情報を発信する

見る

内外の空間で互いに見る

垣間見る

小さな窓から内部の活動を垣間見る

隅入る

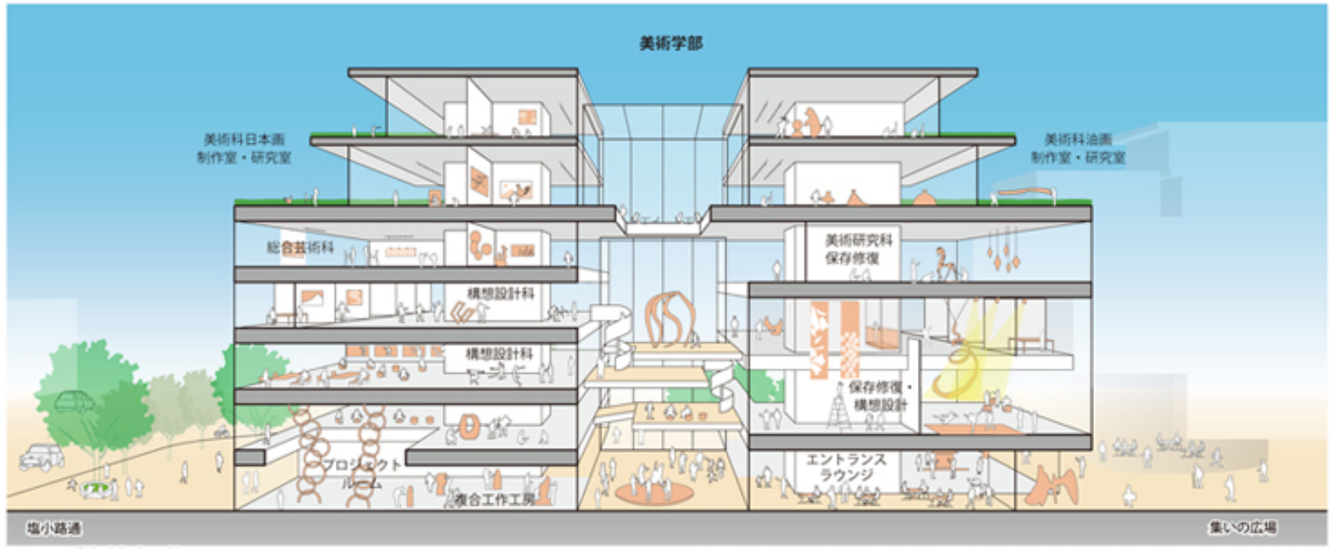
隅入りで奥に人を導く

遊ぶ

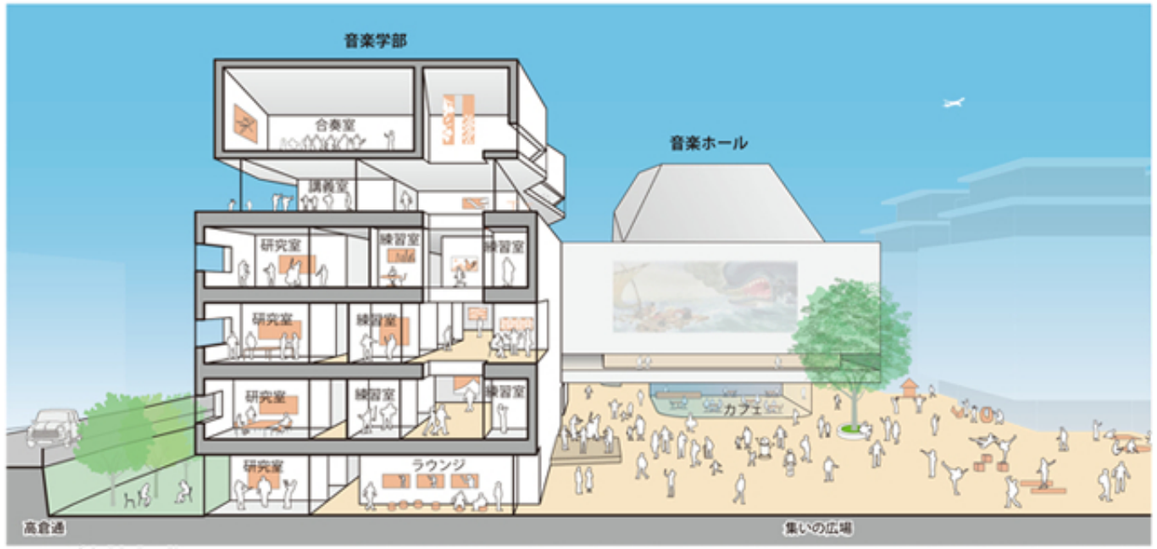
子供は丸が好き

受付番号：

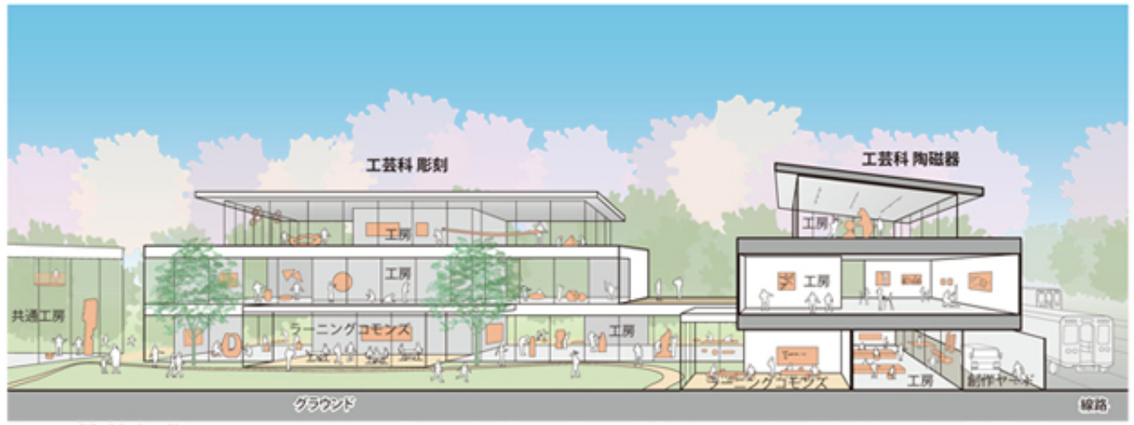
テーマに対する技術提案



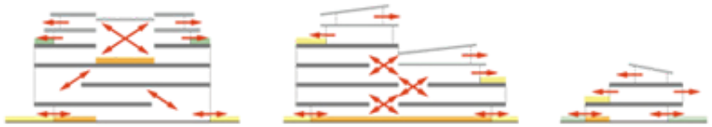
C地区　美術学部　立体的に展開する空間に豊かな視線の構造が生み出される
開放的な広場レベルとそれを俯瞰するフレキシブルな空間
空間全体が創造的アクティビティの契機によって満たされる



C地区　音楽学部　静けさ、よい響き、よい音に配慮しながら、音楽教育に相応しい環境を創り出す
音楽ホール（講堂）は音楽学部とつながり、日常的な練習に活用できる
集いの広場における市民や他分野との交流は、創造性を喚起するものとなる



A地区　美術学部工房群　隣接する創作ヤードと一体的に活用できる、接地性の高い工房群
創作ヤードを介して資材の搬入・搬出が容易に行える
緑豊かな環境での創作活動を可能にする



視線の重層性によってコミュニケーションを誘発し、創造性に満ちた空間が生み出される
にわ側のひさし空間は、ヒューマンスケールの親密な環境をつくり出す

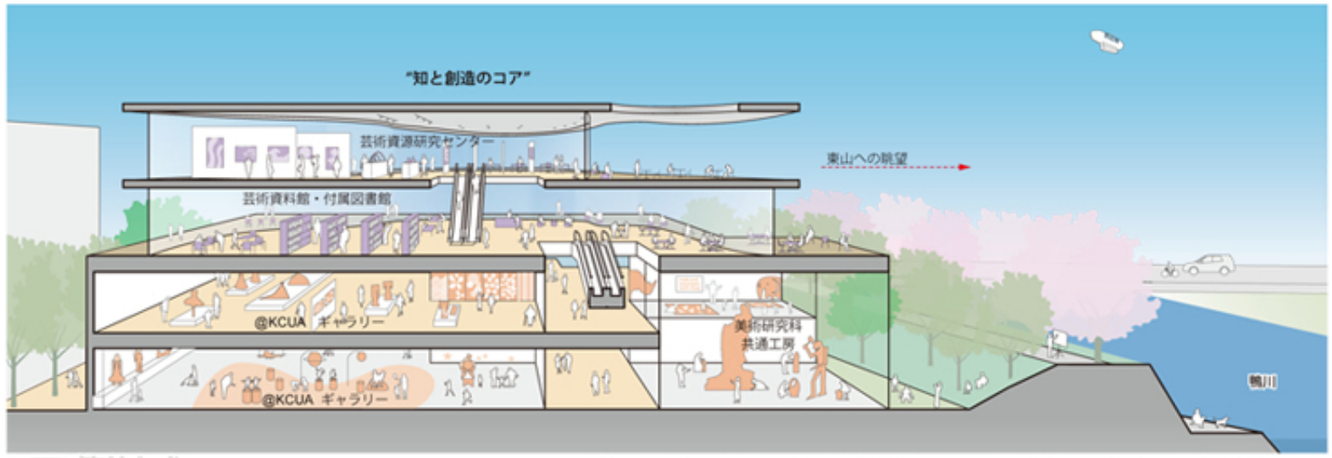
『大きな家』のイメージ
広場や吹抜け、アトリウム等を介して交錯する視線の構造

■空間のフレキシビリティー

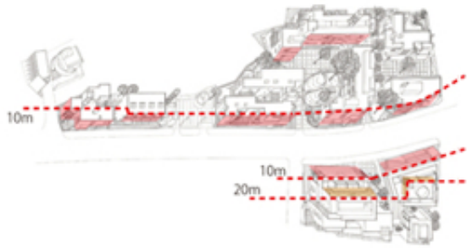
- 『大きな家』は創造性を喚起する空間を提供すると同時に、各機能に対してフレキシビリティーを与えるものでもある。
- 『大きな家』が生み出す視線の重層性は、多様な活動を包容するまちのようなキャンパスを実現する。

■みやこ杣木の積極的な利用

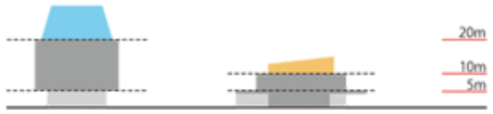
- 内装や家具にみやこ杣木を積極的に利用し、あたたかみのある穏やかな印象の空間をつくる。



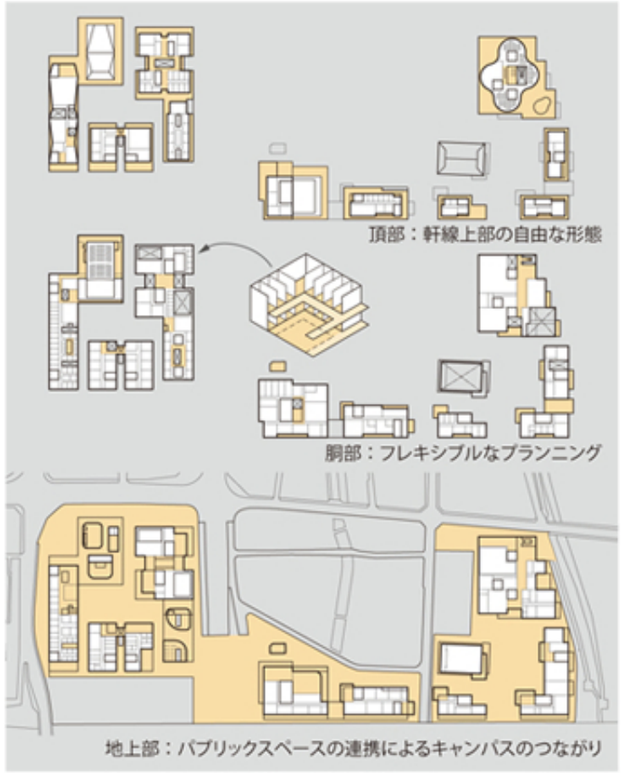
A地区　ギャラリー，図書館，芸術資源研究センター，共通工房が複合した **"知と創造のコア"**
2階のギャラリーからは共通工房での活動を見ることができる
立体的なオープンスペースや大きなテラスでの多様な創造的活動が可能



共通の軒線によって生み出される街並みの調和



共通性と差異性をそなえた建築群によるキャンパス



平面ダイアグラム：空間単位の自由な組合せによるフレキシブルな展開

テーマに対する技術提案

受付番号：

テーマ③：実施体制・進め方、品質・コスト・スケジュール管理について

■省エネルギー・エネルギーマネジメントを実現する環境・設備計画

1.　設備に頼らない環境・設備・省エネルギー計画のフレーム

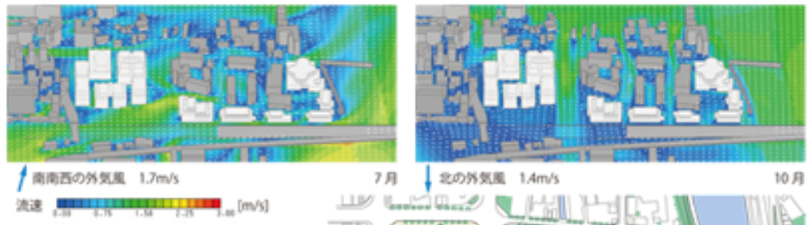
①. 徹底したパッシブデザイン：自然との積極的な調和、設備に頼らない環境負荷低減手法の導入
- 高断熱
- 日射遮蔽
- 分棟配置を活かした自然換気、排気
- 緑化と水系　等

②. 再生可能エネルギーの利用
- 太陽光発電
- 地中熱の熱源利用
- 雨水貯留水のトイレ洗浄水への使用　等

③. 分棟型キャンパスの特性を活かす「分散」と「統合」の設備計画

2.　徹底したパッシブデザインによる環境負荷低減

・通風性、豊かな緑と水系によるヒートアイランド抑制効果を実現するキャンパス



風環境シミュレーション
建物の分散配置による自然通風の活用

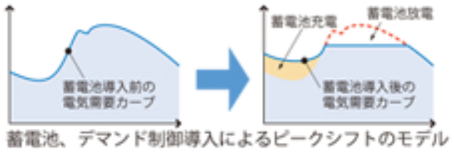
キャンパスの豊かな緑と水系の分布

3.　分棟型キャンパスの特性を活かす「分散」と「統合」の設備計画

「分散」：利用人数・運転時間・冷暖房要求など多様な個別ニーズへ追随する個別機器の分散設置
- 室・エリアを細分化し個別機器でのコントロールによる運用面での省エネ性向上
- 運用時の追加・変更への容易な対応（フレキシビリティ）
- 敷地や建築空間に対する高い自由度の確保

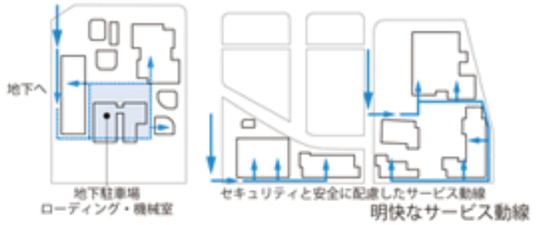
「統合」：キャンパス全体のニーズに適応する電力及び情報の統合
- 地区間での電力融通及び電力平準化
- キャンパス全体の設備監視・情報管理による効率的な維持管理
- セキュリティ ID と連動した空調・照明 OFF 等、システム連携による無駄の抑制

4.　メディアラインによるエネルギーマネージメントシステム
- 蓄電池及び太陽光発電の導入と電力のネットワーク化
- メディアラインによって３地区間での電力の融通
- デマンド制御など、エネルギーを上手に使う分散エネルギーマネージメントシステムの導入



蓄電池、デマンド制御導入によるピークシフトのモデル

■サービス動線計画・排水計画
- 安全とセキュリティに配慮した明快なサービス動線
- C 地区地下に駐車場、ローディング、機械室を設ける
- 鉄道用地に沿って創作ヤードを設け、バッファーゾーンとする
- 各工房に隣接する創作ヤードへの容易な資材の搬出入
- サービスヤードに廃棄物・排水処理の関連施設を設け、適正な処理と専門業者のアクセス等に配慮する

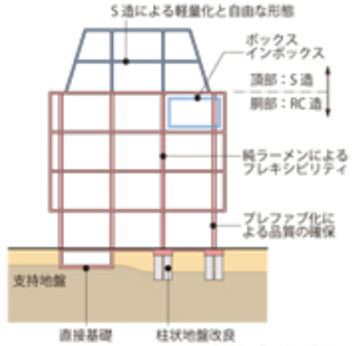


■構造計画

1.　分棟型建物の特性を活かしたシンプルで明快な構造計画
- 更新への対応：純ラーメン構造による壁のないフレキシブルな空間
- 遮音・防音対策：厚い RC による壁及びスラブの構造

2.　災害時の機能維持（BCP）が可能な高い耐震性能の確保
- 官庁施設の総合耐震計画基準に基づく II 類建築物に適合する耐震安全性：保有水平耐力 1.25 倍
- 構造計算：保有水平耐力計算（ルート 3）

3.　構造躯体のプレファブ化による工期短縮とコスト縮減
- プレファブ化による性能確保と現場工事の効率化



構造ダイアグラム

■防災計画

1.　災害時の避難スペースを街区全体に分散配置し、地域に提供する
- 避難施設：A 地区（体育館）、B 地区（食堂、ラウンジ）、C 地区（美術学部１階スタジオ）
- １次避難スペース：A 地区（グラウンド）、B 地区（憩いの広場）、C 地区（集いの広場）

2.　災害時の機能維持のためのバックアップ
- 非常用発電設備（3 日間の燃料備蓄）＋蓄電池＋太陽光発電
- その他、災害備蓄庫の設置、雨水のトイレ洗浄水への活用

3.　関係法令等による安全安心な計画
- 現行法規による防火区画とし、避難安全検証法の大臣認定による計画としない
- ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが利用しやすい施設とする

■防音・遮音計画

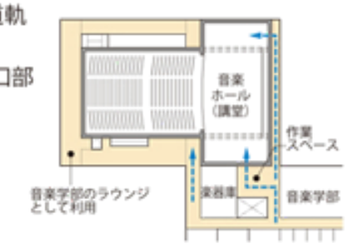
1.　近隣に配慮した配置
- 音や振動の発生する美術学部の工房は近隣街区から離れた A 地区の南側に配置

2.　外部の振動・騒音対策
- 鉄道用地に隣接したキャンパスの騒音・振動対策に十分配慮する。
- 音楽学部練習室、音楽ホールは鉄道橋、鉄道軌道から離隔距離を確保できる C 地区に配置
- 厚い RC の外壁と床による遮音、最小限の開口部

3.　建物内部の室間遮音対策
- 音楽学部の練習室は楽器・声楽の種類、演奏人数によるゾーン分け、緩衝帯の確保などを考慮した配置計画
- 目的に適合する遮音構造（躯体床・浮床・ボックスインボックス）を選択

4.　騒音振動測定による確実な対策
- 測定調査に基づく、より確実な対策の検討

5.　ユーザーとの対話
- ユーザーとの対話によって、各部屋の遮音性能、良い響き・良い音を調整するプロセスを導入する



音楽ホールの平面・断面ダイアグラム
静けさ・良い響き・良い音に配慮する

■セキュリティ計画（地域に開かれた東京電機大学東京千住キャンパスのセキュリティシステムを参考）
- まちに開かれたキャンパスを可能にするセキュリティシステムの構築
- まちに対しキャンパスをどのようなかたちで開くか、各関係者との十分な話し合いによって決定していく

1.　全ユーザーの入室権限の階層化と ID 登録の設定

	a. 一般市民	b. 予め登録されたゲスト	c. 予め登録された委託業者、外部パートナー	d. 学生・教職員	e. 特定の職員（施設管理担当等）
・ユーザーの種別					
・入室権限の階層化と ID 登録の設定	ID カード等なし	来館時または来館登録時にカード等を貸与	範囲を限定した ID カード等	機密性、危険を伴う範囲を除く ID カード等	全範囲に入館可能な ID カード等

2.　ゾーン毎のセキュリティレベルの区分

	① 市民も 24 時間利用可能	② 市民も開館時間中利用可能	③ 予め登録されたゲストが通行可能	④ 予め登録された委託業者、外部パートナーが利用可能	⑤ 学生・教職員のみ利用可能	⑥ 特定の教職員のみ利用可能
・セキュリティレベルの種別						
・ゾーン分け（例）	広場などの外部開放ゾーン	エントランス・食堂・図書館・ギャラリー等	ラチ内動線部・各部局受付・各訪問先・催事時の音楽ホール等	厨房、購買部等・産学連携研究室等	研究室・製作室・練習室等、大学関係者のみが利用するゾーン	機密性や危険を伴うゾーン

3.　動線に対応したセキュリティポイント

4.　キャンパス１階廻りのセキュリティゾーン分けダイアグラム

テーマに対する技術提案

受付番号：

■設計業務の取り組み体制

1. まちづくりから建築まで経験豊富な設計チーム

・当事務所はマスターアーキテクト槇 文彦を中心にアーバンデザインからキャンパス計画、公共施設等多くの実績をもつデザインチームです。

・本プロジェクトでは槇文彦を中心に、管理技術者と建築担当技術者が設計全体を総括し、さらに、品質担当チーフとワークショップ担当チーフがサポートし、プロジェクトの円滑な推進を図ります。

2. 協力事務所と一体の設計チーム

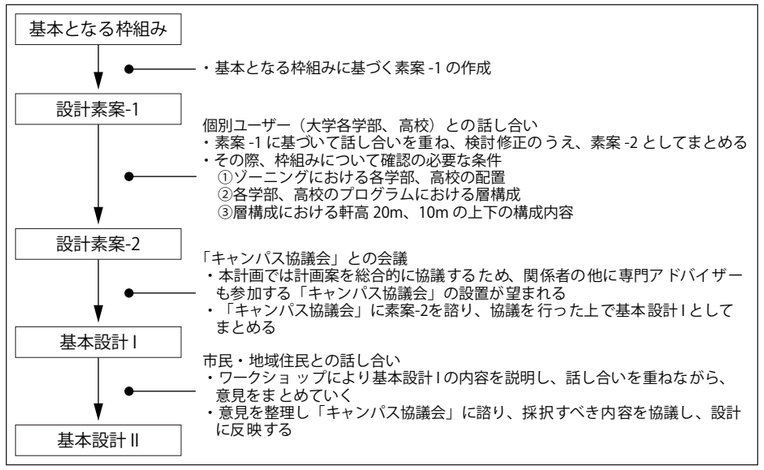
・構造、設備、音響、防災、ランドスケープ、照明デザイン、積算の各専門分野は、専門事務所との協力体制で取り組みます。当事務所とチームを組んで長年の実績があるため、一体のチームとして綿密な連携による取り組みが可能です。

・新しい 1 社を加えた万全の協力事務所体制：２次審査技術提案書の提出にあたり、協力事務所に新しく 1 社を加え、万全の体制で取り組みます。

・A.T.Network：東京を拠点とし、劇場コンサルタント・近江哲朗主宰の劇場コンサルタント事務所。豊富な実績に裏打ちされた舞台機構・舞台照明設計の協力体制を補強します。当社との協力実績：静岡市清水文化会館（大ホール 1,513 席、小ホール 292 席）

■柔軟に対応していくための設計プロセス

・基本となる枠組みを活かしながら、関係者との対話や時間により変化していく部分について、どのように柔軟に対応しながら具体案をまとめていくのか、設計プロセスの検討案を示す。



■対話型の設計プロセス

1. ワークショップによる設計の実績

・当事務所は近年、庁舎や公共文化施設でワークショップを行いながら設計をまとめ、設計内容について公開でシンポジウムを開催した経験を持つ。

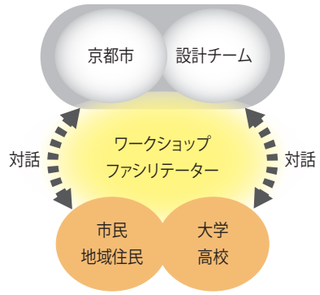
・豊富な経験を活かし、ワークショップの過程で必要とされる様々な可能性の検討や代替案などについて、柔軟性をもって迅速に対応していく。

2. ワークショップの進め方

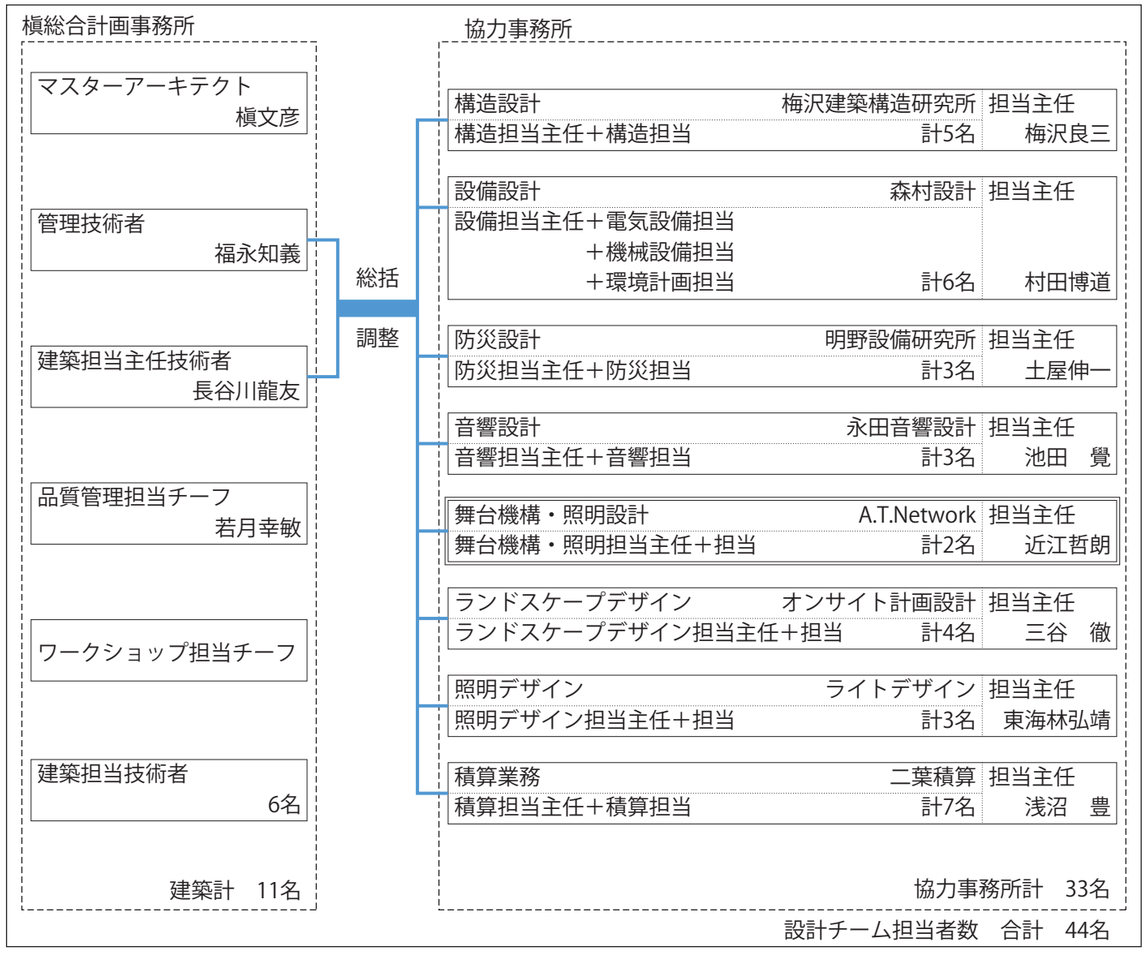
・多様な関係主体とともにワークショップを開催し、対話による合意形成を重ねながら、相互理解の基に設計に反映していく。

・ワークショップのファシリテーターとして、大学や市民の各サークル、NPO 法人等関連団体、学術機関の専門家などの協力を得て対話を図りたい。

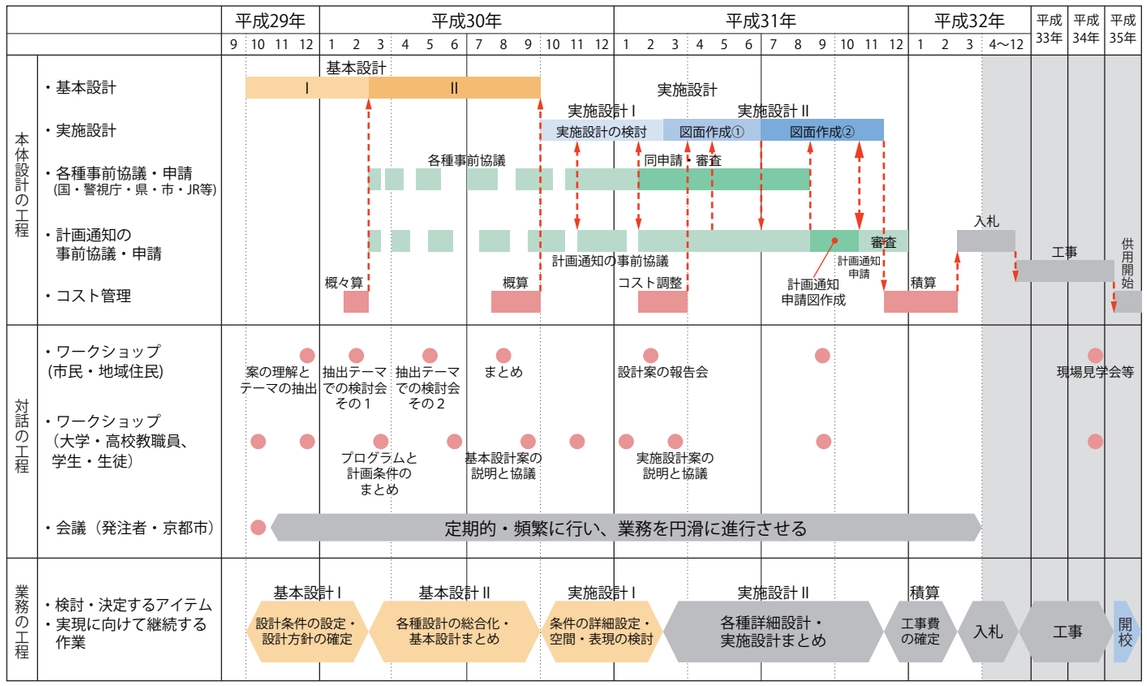
・話し合いにおいて、計画内容についてなど具体的な説明が必要な際は、模型やスケッチ、CG パース、実例写真などを用いて、分かりやすいプレゼンテーションを行い、相互理解を図る。



■設計チーム組織図



■性能確保やコスト、スケジュール管理の基本方針



・コスト管理の方法	a. 自然を活かしたパッシブ型の環境計画と維持管理のしやすい計画による省エネルギー、維持コストの抑制、ライフサイクルコストの低減 b. 建築、構造、設備などのトータルなバランスによるイニシャルのコントロール c. 各段階におけるコスト算定の実施とコスト調整
・性能確保の方法	a. 関係主体との対話による的確なニーズの把握 b. 実績と諸データに基づく仕様方針、複数案の検証による妥当性の確認 c. 経験豊富な品質管理チーフによる精査
・スケジュール管理の方法	a. 各種調査・分析に基づくマススケジュールの立案 b. チェックリストによる実際の進行の常時チェック c. 設計チームの緊密な連携によるスケジュール管理